



令和3年7月末・完成予定

新たなまちの拠点

新庁舎の工事が本格着工

関係者約100人が集い工事の安全を祈願



工事の安全を祈願し、くわを入れる鈴木重男町長と高宮一明副議長

葛巻町新庁舎建設工事を前に12月12日、同建設予定地（旧葛巻病院、養護老人ホーム葛葉荘跡地）で関係者ら約100人が出席し、安全祈願祭が執り行われました。

鈴木重男町長は「新庁舎は行政、交流、医療、防災といったまちづくりの総合的な拠点です。また、商工機能や金融機関が入る予定となっております。これまでに以上で町民の利便性の高いエリアになります。次の時代を担う若い皆さんから感謝される施設にしていきたい」とあいさつ。令和3年7月末の完成を目指し、本格的な工事が着工されます。

「新庁舎の主な特徴」

- 「葛巻らしさ」を演出した外観
 - ▽3寸勾配の屋根は山並みと調和するスカイラインを形成
 - ▽ミルクカラー、ワインカラー、町産木材を使用するなど、町の特色を織り交ぜた仕上げ
 - ▽病院外観との調和
 - ▽町を象徴する広場、ワインボトル型ルーバー
- 町産木材で温かみのある内装
 - ▽町民が集まるエントランスや交流エリアを中心に町産木材や色で「葛巻らしさ」が目に見える形で使用

- ▽用途に合わせ木の種類を変更。木肌が美しい「アカマツ」は家具や議場に、強度が強い「チラ」は多目的ホールに、その他には町産の「カラマツ」を使用
- 「にぎわいをつくる工夫」
 - ▽広場大屋根は、天候に左右されずワークショップや朝市の開催を可能に
 - ▽300人収容の多目的ホールは、劇場形式や平土間形式で利用でき、さまざまなイベントへの対応が可能に
 - ▽図書や子育てサロン、バス待合、研修室などが用意され、まちなか交流拠点施設としての利用が可能に
- 「堅さ（防災性）や快適性の備え」
 - ▽病院から庁舎広場まで、屋根付きの歩行者連絡歩廊を設置
 - ▽土石流や水害から建物の崩壊を防ぐため、建物外部の柱は強固な鉄骨鉄筋コンクリート造を設定。発電機設備を5階に配置するなど、災害に対応した構造
 - ▽高断熱サッシの採用などによる寒さ対策
- 「フリンエネルギーのまち」としての環境配慮
 - ▽地中熱の利用
 - ▽自然通風の確保
 - ▽バルコニー軒で日射遮蔽
 - ▽LED照明の採用

令和3年度末・完成予定

新たなまちのシンボルは 町産木材を活用した屋根付き大橋

老朽化が進む大橋の架け替え工事の着工を前に12月11日、象鼻会館で住民説明会が開催されました。

地権者や関係者など地域住民ら22人が出席。新大橋を含む町道葛巻浦子内線の道路整備について事業の説明を受けました。

「質疑応答」

Q 総事業費は？

A 6億5千万円。内訳は、橋りょう4億5千万円、上屋根1億円、撤去1億円となっている。

Q 新大橋の幅は？

A 全幅9.5m。内訳として車道5.5m、歩道は両側2.5mずつを想定している。

Q センターラインは？

A 付けないが、車道は、対向車とすれ違うことが十分にできる幅となっている。

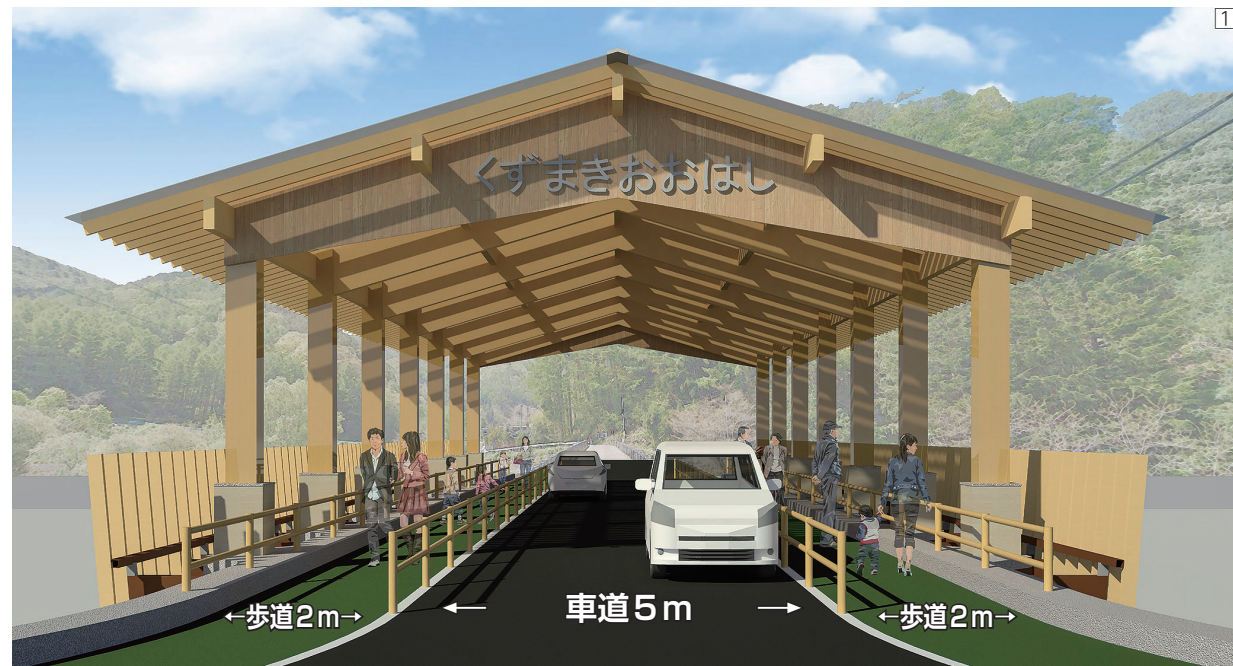
Q 今の大橋は最終的にはどうなるのか？

A 新大橋の完成と町道葛巻浦子内線の整備すべてが終了した時点で、取り壊す予定としている。

Q 大橋の完成はいつ？

A 新大橋の完成は、令和3年度末を予定。その後、同線の整備を順次行う。

住民説明会の席上で出された質問の一部をご紹介します。



①②新たなまちのシンボルとして整備を進める新しい「大橋」完成イメージ③12月11日に行われた住民説明会の様子。役場担当者の説明に耳を傾けながら熱心にメモを取る出席者の皆さん

